

第 1 回本部港中長期計画(仮称)検討委員会 議事概要

日時：令和 6 年 6 月 3 日(月)14：00～16：00

場所：ヒルトン沖縄瀬底リゾート 2 階 オーキッド

事務局から委員会の進め方や本部港等の現状について説明し、委員から意見等の発言があった。その内容は以下のとおり。

1 検討委員会の進め方について

- 政策実現を加速させるにあたっては、やはり支えとなる予算措置というものが決定的に重要になっていく。予算獲得も視野に入れながらの計画立案になればならないと思っている。

2 本部港及び本部港を取り巻く現状等について

- 北部地区やんばる、ひいては沖縄の拠点になるという期待を持っている。この場所に関係なく、各地区の移動や機能強化、そこまで意見を求めて集約していく必要がある。
- 渡久地地区(旧本港地区)の壊れそうな岸壁も整備するのか。新しい施設を整備してだけでなく、既存施設を維持補修、整備し、町の経済を潤していくということを提案する。
- 岸壁整備において、生物の生息地になるような構造にすることを提案する。
- ホテル事業者も本委員会に参加した方がよいと考える。
- 浜崎地区が自然環境保全ゾーンとなっている。消波ブロックの設置等をした箇所であり、元々、自然の環境であったかという、違うと思う。
- 本部地区(旧本港地区)と(旧塩川地区)との間は、サンゴ礁がたくさん残っている。自然環境保全ゾーンとして位置づけることはできないか。
- 本部港における後背地の産業の特徴というものを捉えて、それを方向性に結びつけていくということが必要と考える。本部港における主な取扱貨物は農業、漁業、畜産といった 1 次産業と、飲料関係の 2 次産業における生産物又は生産資材である。
- 北部 12 市町村の観光というものをどうするのか。こういう港という計画の中にどう入れ込んでいくかということを国、県、町も全体構想の中でそれを方向性として取り入れてほしい。
- 本部港における全体構想の中で、施設用地を要するのであれば、北部港運の倉庫を港湾外へ移転してもよいと考えている。
- 本部港は、北部のゲートウェイである。鹿児島航路、那覇航路が運航しており、観光客の集客をもっと伸ばしていく必要がある。
- 琉球海運、北部港運は、京阪航路における貨物量増加に向け、品質の確保、リードタイムを短くする、物流コストを下げる取組を行っている。荷主となる方々も本委員会に参加しているので、一緒に地域の産業振興に資するような港湾計画を作っていけたらと考えている。
- 本部地区(旧本港地区)で計画されているクルーズターミナルについては、北部の民間企業で整備をさせて欲しい。民間企業を募って、民間企業主導でターミナルを運営していくことを、この計画の中でお願いしたい。

- 本部地区(旧本港地区)では駐車場が不足している。村で、新たな立体駐車場整備を令和7年度に北部連携促進事業を活用し整備する計画である。県有地確保について早急な取組をお願いしたい。整備箇所は、廃船の放置や、プレジャーボート客の駐車場として使用されている港湾内の荷捌地。これは、すぐに取り掛からないといけない整備である。これまで村が要望してきた屋根付歩道の整備なども中長期ではなく、早急な整備を要望する。
- 農林水産物を那覇に持っていかないで、北部から県外出荷できるような拠点を形成するということは極めて重要なことである。
- 新たに後背地をどのような形で農林水産物の出荷拠点として整備する施設が必要なのかといったものをしっかりと議論し、そして農林水産部とも連携していく必要がある。
- 本部地区(旧本港地区)で計画されているクルーズターミナルについて、交渉を進めている船社と早く整理し、クルーズターミナルの形成に向け取り組むことが喫緊の課題と考える。
- 港湾の管理運営形態について、問題、課題を抽出し、本計画の中でも取り扱って欲しい。

以上